（別紙4（1））

# 1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

| | | | |
|---|---|---|---|
| 事業所番号 | 0390600062 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人　和江会 | | |
| 事業所名 | グループホーム　わがの里 | | |
| 所在地 | 岩手県北上市下江釣子１１地割2番地17 | | |
| 自己評価作成日 | 平成25年5月30日 | 評価結果市町村受理日 | 平成25年11月1日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

| | |
|---|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kihon=true&JigyosyoCd=0390600062-00&PrefCd=03&VersionCd=022 |

【評価機関概要（評価機関記入）】

| | |
|---|---|
| 評価機関名 | 公益財団法人いきいき岩手支援財団 |
| 所在地 | 岩手県盛岡市本町通3丁目19-1　岩手県福祉総合相談センター内 |
| 訪問調査日 | 平成25年6月26日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

毎日笑顔が見られ、安心して生活出来るように声かけながら支援しています。
家族のようにそばにいて、生活のお手伝いをしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

静かな新興住宅平地に母体法人（和江会）の特別養護老人ホーム・デイサービスセンター・保育園が立ち並び、隣に、このグループホームが立地している。防災訓練や様々な催事など地域との交流があり、特に保育園との交流は、利用者からも大変好評である。ホーム内は理念にあるように、家庭的で、利用者の表情が穏やかで、安心感がにじみ出ている。玄関付近にある展示スペースには、利用者毎のアルバムが9冊置かれ、家族・知人が訪問の際に、そのアルバムを見ることで、日々の生活状況がよく分かるようになっている。遠距離のため頻繁に面会に来られない家族へ利用者宛に手紙を出して頂くようにしてもらい、落ち着きと幸福感を抱かせる細かい配慮がなされてる。同一テーブルで利用者さんと職員が家族同様に和気藹々と食事をしている様子が印象的である。

## Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| | 項　目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|---|---|---|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25） | | 1. ほぼ全ての利用者の |
| | | ○ | 2. 利用者の2/3くらいの |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいの |
| | | | 4. ほとんど掴んでいない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38） | ○ | 1. 毎日ある |
| | | | 2. 数日に1回程度ある |
| | | | 3. たまにある |
| | | | 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38） | | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | ○ | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37） | | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | ○ | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49） | | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | ○ | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31） | | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | ○ | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 62 | 利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28） | | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | ○ | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |

| | 項　目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|---|---|---|---|
| 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19） | | 1. ほぼ全ての家族と |
| | | ○ | 2. 家族の2/3くらいと |
| | | | 3. 家族の1/3くらいと |
| | | | 4. ほとんどできていない |
| 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20） | | 1. ほぼ毎日のように |
| | | | 2. 数日に1回程度 |
| | | ○ | 3. たまに |
| | | | 4. ほとんどない |
| 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4） | | 1. 大いに増えている |
| | | ○ | 2. 少しずつ増えている |
| | | | 3. あまり増えていない |
| | | | 4. 全くいない |
| 66 | 職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12） | ○ | 1. ほぼ全ての職員が |
| | | | 2. 職員の2/3くらいが |
| | | | 3. 職員の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | ○ | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | | 1. ほぼ全ての家族等が |
| | | ○ | 2. 家族等の2/3くらいが |
| | | | 3. 家族等の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどできていない |

## 自己評価および外部評価票

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 実践状況 | 外部評価 実践状況 | 外部評価 次のステップに向けて期待したい内容 |
|---|---|---|---|---|---|
| **Ⅰ.理念に基づく運営** | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践<br>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 「いつも笑顔で安心して暮らせる日々を目指して」<br>・まごころこめて生活のお手伝いをします。<br>・家族のようにいつもあなたのそばにいます。<br>を理念とし、努力しています。 | 毎月(第三水曜)の職員会議にて、管理者を中心に、皆で作り上げた理念を基に、日々のケアの振り返りと、目標などを話し合い、確認し合っている。今後は更に地域との交流にも力を入れ、その旨を理念に加え、実践することを思案中である。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい<br>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域行事の参加をしている。<br>・鬼の館へ催し物の見学。<br>・地区行事への参加 | 毎年恒例の観音祭り見学や展勝地への花見会や年3回の地区の清掃活動や、法人全体での夏祭りなどで、地域の方々との交流も増えてきている。母体法人が自治会に加入してることや、運営推進委員に地区長も加わっていることもあり、前向きに交流を図っている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献<br>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 日々のケアを実践をしながら、認知症への理解を深め、地域に発信出来るように努力しています。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月ごとの会議を実施している。<br>・入居者の生活の様子を報告し、家族や委員の方達からも意見を頂いている。 | 委員の任期を2年として、家族代表・住民代表・市の委託先である包括支援センターが出席し、ホームからの状況報告やそれに対する意見交換を行い、サービス向上に活かしている。時には防災についての提言も頂くこともある。 | 更に充実した運営を図るためにも、消防署・駐在所・市の関係部署等への声掛けをし、テーマ等に応じて参加して頂き、防災・安全面を含めた多角的な話し合いをすることを期待したい。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携<br>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 運営推進委員に包括支援センターより参加頂いて意見を伺っている。また、地域医療の連携等についてもアドバイスいただいている。 | 市の委託先の包括支援センターが推進会議に出席し、地域医療・医師との連携・訪問看護のあり方などや利用者の状況に対するアドバイス等もくださり、サービスの向上に活かしてる。また認定更新等の機会に、利用者の暮らしぶりを市の担当者と話し、連携を深めるように努力している。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践<br>代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 夜間や突発的な場合には含みを持たせるが、原則として行なわないこととしている。。 | 玄関にはセンサーが備えてあるが、夜勤者一人体制の時だけ作動させている。遠方で面会に頻繁に来られない家族には、本人宛に手紙を出して頂けるようお願いし、帰宅願望が出る方でも、落ち着いて生活してる。職員は日々のミーティングなどでその日のケアを振り返り、互いに確認し合っている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底<br>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている | ・講演会等に参加し、職員に伝達している。<br>また職員会議で研修機会を設け考え方を徹底している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 実践状況 | 外部評価 実践状況 | 外部評価 次のステップに向けて期待したい内容 |
|---|---|---|---|---|---|
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用<br>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | ・職員会議等で研修の機会を設けている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得<br>契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約は、入居前に説明を行い、同意を得ている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映<br>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 運営推進委員の中に入居者家族も委員として参加頂いている。<br>・面会時に家族の意見や要望を聞くようにしている。 | 面会時にはホームから始めに近況報告をし、気楽な雰囲気を作り、率直な意見・要望を頂いている。ホームからも家族へ季節毎に衣類の入れ替え等をお願いすることがある。またケアプラン作成時にも、率直な話し合いを行っている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映<br>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎月の職員会議には、全員参加で意見を交換している。 | 毎月の第三水曜日に職員会議で意見交換をし、また、毎日のミーティング時にも気付きを話し合い、日々のケアに活かしている。(例:利用者の声を集約して外出先を決める等々) | |
| 12 | | ○就業環境の整備<br>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 人事考課を行い、職員の意識などの確認をしている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み<br>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 研修には、積極的に参加している。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上<br>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | ｸﾞﾙｰﾌﾟﾎｰﾑ協会に加入しているので、研修等には参加している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 実践状況 | 外部評価 実践状況 | 外部評価 次のステップに向けて期待したい内容 |
|---|---|---|---|---|---|
| **Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援** | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入所前の自宅訪問等を行い、本人からの話を聞くなどの対応をした。<br>・顔見知りになる機会を作っている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入所前に自宅訪問し、家族の話を聞いて対応した。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援<br>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人・家族と話し合いながら、他のサービスの利用状況を確認しながら、入居日を決定するなどして対応した。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | そばに付き添いながら話を伺い、家族のようにいられるよう努力している。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係<br>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 面会時などは、生活の様子などを伝えながら本人の思いを伝えたり、家族からの意見を伺いしながら対応している。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援<br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 知人の・親類の来所があったり、自宅周囲の方との関係がある。 | 時折、法人内のデイサービス利用者がホームの利用者に会いに訪ねてきたり、家族からの差し入れを頂いたり、馴染みの美容院に家族と外出したり、利用者の知人に買い物に付き合って頂いたり、様々な形で関係継続の支援をしている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援<br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 入居者の居場所が決まって来たり、食事は全員で食堂で食べ、顔を会わせる機会を作っている。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み<br>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | ・退所した方の居宅ケアマネより、退所後の様子を聞くことがある。・ホームへ移転した方へは(家屋が近いので)ときどき面会している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| **Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント** | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 個人の生活の流れがわかって来たので、本人の通り行っています。話を良く聞き、施設で出来る事は努力している。 | 特養ホームへ移った方や入院された方もおり、6名の利用者が入れ替わったが、担当者を中心に日々の関わりの中で、声掛けや言葉や表情から真意を推し測ったりして職員の努力が実り、穏やかな暮らしを営まれている。理念そのものである。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握<br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入所前に伺っているが、入居後の生活の様子を見ながら、家族から再度伺うこともある。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握<br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 申し送りノートに日々の様子を書きながら、状態の把握に努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 毎月の職員会議に、ケアの困難な所を出しその都度話しあっている。また担当者会議も行い、計画の評価も併せて行っている。<br>家族からの意見も求めている。 | 利用者本人や家族には日頃の関わりの中で、思いや意向を聞いて、毎月の職員会議で話し合い、特に担当の職員からの意見を参考に計画を立て、家族からの同意を得ている。3ヶ月毎の見直しとしてるが状態変化の際には臨機応変に見直している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映<br>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | ・ケース記録を活用したり、朝・夕の申し送りによって生活の様子を共有している。・毎月の会議で利用者一人一人の目標を確認しまた評価している。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化<br>本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 努力している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働<br>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 移動図書館を利用したり、知人の協力を得て外出したり、入居前の美容院に行ったりと協力を得ている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援<br>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 訪問診療等を活用したり、家族から通院の支援をいただいたりしている。 | 利用者の以前のかかりつけ医を基本にしている。6名の方が訪問診療を受けており、3名の方が家族同伴で通院されている。都合により職員が同行することもある。いずれの場合にも、互いの報告は欠かさない。 | |
| 31 | | ○看護職との協働<br>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 状態の変化等については、主治医に伺いながら対応している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働<br>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院等があった場合は、情報提供することはもちろんのこと、入院中の様子を訪問し伺うなと、退院等についても看護師に聞き、家族とも相談している。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援<br>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | ・入院後の状態変化により、主治医・家族と相談し、特養の入所等の申し込みを行った。。施設で出来ないことは伝えているが、家族の希望も伺っている。<br>・終末期のあり方については、特に決めていないが、医療的な関わりが多い場合は受け入れが困難である事は説明している。 | 重度化（食事が取れない・医療行為が必要等）に伴う、事業所が対応出来る最大のケアについて、入居時に本人と家族に説明をしている。段階ごとに、家族、かかりつけ医等と連携を取りながら、最大のケアを目指して意思統一を図っている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え<br>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 緊急マニュアルを作成している。<br>定期的な訓練は行っていない。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 毎月の避難訓練は行っている。(4 ～10月)<br>地域に特養の地域防火協力隊があり、9月に合同避難訓練を行った。 | 特養ホームの地域防火協力隊があり、昨年9月に合同避難訓練を行った。ホームとしては毎月の職員会議時に夜間想定の避難訓練も実施している。 | 夜間想定の避難訓練は実施されているが、年に一度は夜勤者一人体制時の避難訓練も行う必要性もある。災害時の近隣者の応援（見守り等）は欠かせない。運営推進会議時に、話題にするなどして、地域に声掛けして頂くことも一案である。それらの取り組みに期待したい。 |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| **Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援** | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保<br>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 入居者への配慮には留意している。 | 禁句マニュアルは用意していないが、毎日のミーティング時に意識して話し合いを行っている。今年度、新しく6名の利用者が替わったが、全職員で早く穏やかな生活を送れるようにと努力し、利用者一人ひとりの個性を早期に掴みつつ、援助が必要な時も本人の気持ちを大切に考え、さりげないケアがなされている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援<br>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 介護者のペースで話すことが無いよう、入居者の話をゆっくりと聞くようにしている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 日課表があるのである程度の基準としているが、全てその限りでは無く、本人の意向は伺い行っている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援<br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 行っている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | ・献立作成時には、希望を聞いている。<br>・職員も一緒に食べている。・食器拭きやテーブル拭きを利用者の方と一緒に行うことがある。 | 献立は、特に利用者担当職員に希望を聞いて頂き、それらをもとに決めている。職員も同じテーブルで共に食べている。食事介護が必要な利用者に、若い男性職員が寄り添って、同時に自分も食べながら、寄り添って食事をしている姿が、大変微笑ましく、印象的であった。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 献立は職員が立てるが、特養の管理栄養士に栄養面・バランス等の確認をしてもらっている。<br>食事摂取量は記録している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持<br>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後歯磨きを行い、夜間は入れ歯を保管している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援<br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 食前食後の排泄介助・随時の介助等を、排泄記録用紙に記録し対応している。 | 排泄表をこまめに記録し、尿意のない利用者にも時間を見計らって誘導し、トイレで排泄するように支援している。失敗して汚してしまっても周囲に気付かれないように、手早く片付け、傷つけないように対応している。パットやオムツの使用タイミングも一人ひとりについて常に見直しをしている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応<br>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 朝食後の排泄介助・水分補給・下剤の服薬確認等を行っている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援<br>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 週2～3回を計画し、入浴日・入浴時間(午前)はあらかじめ決めている。<br>本人の拒否があれば、次の日に声がけしている。足浴を実施することもある。 | 週2～3回(午前)の入浴日にしているが、時々入浴拒否をされる際には、「身体検査があるから」などと言葉を変えて対応したり、状況によっては翌日にすることがある。個々のバイタルの基準も決め、記録をしている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援<br>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 行っている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援<br>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 内服はほとんどの方が服薬している。<br>内服の変更時は、薬の効能や用法を申し送り、服薬確認している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 行っている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援<br>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | ・施設では、近所への散歩・公園へのドライブ。<br>・知人との、ショッピングセンターへの買物。 | 地域の世代交流会や保育園の餅つき会や展勝地への花見会や秋祭りなど、母体の特養ホームからリフト車を借りて、全員で出かけている。時には利用者から積極的に散歩希望の声が出て、急きょ出かけることもある。また、利用者の知人の誘いで、買い物に出かける方もいる。 | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援<br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 行っている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援<br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話の使用は行っている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | ・展示スペースを利用し、普段の様子・行事等の写真を貼付している。<br>・個人の作品も展示している。 | 玄関のところの展示ボックス内に、利用者一人ひとりの写真アルバムがあり、家族・知人が面会に訪問した際に、利用者本人の暮らしの様子が一目でわかる。アルバムのほかに、展示スペースには様々な行事の写真・作品が展示されてある。広いリビングのガラス戸から園児たちの可愛らしい散歩姿が見える。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | こたつ・ソファの利用や食堂テーブルの定位置で過ごしている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 家族の写真やぬいぐるみなどを置いている。 | 全体が床暖房で、各居室にはベット・ロッカー、照明台が備えてあり、ご主人のご位牌や家族の写真やぬいぐるみなどが持ち込まれ、それぞれ暖かい雰囲気をかもし出している。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり<br>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 手すりの設置により、歩行支援をしている。 | | |